

11月. [肺癌 2010; 50(1): 85]

- 22) 秋葉直志. (座長) 一般演題 (ポスター) 51 転移性肺腫瘍 2. 第50回日本肺癌学会総会. 東京, 11月.
- 23) 松平秀樹, 竹内恵理保, 井上雄太, 桑野秀規, 中島由槻. 結核性慢性膿胸を有する高齢者に対し右肺全摘術を施行した原発性肺癌と膿胸関連悪性リンパ腫合併の一切除例. 第156回肺癌学会関東部会. 東京, 12月.
- 24) Nakano S, Sakamoto H, Ohtsuka M, Mibu A, Kari-komi M, Sakata H, Yamamoto M. Successful use of MDCT on detecting contralateral breast cancer. 32nd Annual San Antonio Breast Cancer Symposium. San Antonio, Dec.
- 25) 井廻良美, 神尾麻紀子, 野木裕子, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 福島久喜, 内田 賢, 森川利昭, 大木隆生. G-CSF 産生腫瘍が疑われた乳癌. 第71回日本臨床外科学会総会. 京都, 11月.
- 26) 神尾麻紀子, 加藤久美子, 野木裕子, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 福島久喜, 内田 賢. 化学療法が著効した乳腺原発 metaplastic carcinoma の一例. 第71回日本臨床外科学会総会. 京都, 11月.
- 27) 加藤久美子, 中田典生, 神尾麻紀子, 野木裕子, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 福島久喜, 内田 賢, 大木隆生. ソナゾイドによる乳腺造影超音波検査の有用性. 第71回日本臨床外科学会総会. 京都, 11月. [日臨外会誌 2009; 70 (増刊): 566]

小児外科, 血管外科

教授: 大木 隆生	血管外科
講師: 石田 厚	血管外科
講師: 金岡 祐司	血管外科
講師: 戸谷 直樹	血管外科
講師: 吉澤 穰治	小児外科

教育・研究概要

I. 小児外科

1. 教育

学生・研修医・レジデントに対する小児外科教育には、症例の集積が不可欠である。当院における手術症例数は毎年増加傾向にあり、2009年度は418例であり、全国の大学付属病院中の小児外科手術数としては上位の数となった。低侵襲手術を目指して、鏡視下手術の対象が増加した。小児外科手術件数が最も多かった疾患は、鼠径ヘルニアであり101例の手術を施行した。その内85例には腹腔鏡による修復術を施行した。次いで症例数が多かったのは漏斗胸であり、胸腔鏡を用いて43例のベクタスバー挿入手術を行った。消化器・呼吸器疾患の他、小児泌尿器疾患も行い、小児外科でおこなう多種類の術式のほとんどのものを施行した。

2. 研究

- 1) 乳幼児の便秘症患児の直腸内圧検査・直腸肛門反射に関する研究
- 2) 埋没陰茎に対するテストステロン投与と陰茎形成術との併用療法に関する研究
- 3) 膀胱尿管逆流症に対する膀胱鏡下 Deflux 注入療法の適応拡大に関する研究
- 4) 中心静脈カテーテルに関する研究: 小児の輸液路を長期・中長期に確保する最良の方法や、カテーテルの選択法についての研究
- 5) 膀胱鏡下 Deflux 注入療法: 膀胱尿管逆流症に対する低侵襲手術療法として、その適応と教育に関する研究
- 6) 漏斗胸に対する Nuss 手術: 複数本のベクタスバー挿入法の適応と臨床効果に関する研究
- 7) 悪性腫瘍に対する分子標的療法: 血管新生に関与する抑制因子を発現する遺伝子を多種類導入することによって、腫瘍の増殖・転移抑制効果に関する研究
- 8) 血液浄化による敗血症治療: ラット敗血症モデルを用いて、血液浄化のタイミングと炎症性サイトカイン発現量に関する研究

9) 神経芽腫の悪性度と microRNA の発現に関する研究

II. 血管外科

1. 胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフトの臨床応用

胸腹部大動脈瘤は破裂してしまうと極めて救命が困難であり、また待機手術においても未だ高い死亡率と対麻痺を始めとした悲惨な合併症を引き起こす致命的疾患である。われわれは、開胸開腹手術が困難な症例に対しては個人輸入ベースで使用医療器具を入手し、枝付きステントグラフト手術を行っている。単径部の小切開のみで腹腔動脈・上腸間膜動脈・腎動脈に送血用の枝をつけてから動脈瘤を空置する治療を行い得るため局所麻酔下での手術も可能である。枝付きステントグラフト手術を行い良好な成績を収めている。

2. 薬剤溶出ステントの基礎的研究と臨床応用

浅大腿動脈の狭窄・閉塞病変 (SFA 病変) に対するステント治療は、未だ再狭窄率が高く問題点も多い。われわれは、SFA 病変に対して内膜肥厚の抑制を目的とした薬剤溶出ステントの開発と基礎的研究、さらに日米独同時臨床治験も行った。臨床治験の結果は満足できるものであり、現在保険収載に向けて準備中である。

3. 血管内治療用シミュレーターを用いたトレーニングシステムの導入

血管内治療は特有の技能を必要とする分野であり、ある一定の learning curve が存在する。われわれは血管内治療用のシミュレーターを導入したトレーニングシステムを構築している。これは、パイロットのフライトシミュレーターのように、実際に極めて近い画面を見ながら実物のワイヤやカテーテルを使ってトレーニングを行えるようになっている。頸動脈・腎動脈・腸骨動脈・下肢動脈などの各種血管に対する血管内治療がプログラミングされており、さらに難易度も選択できる。このシミュレーターでステップを踏むことで、臨床へのスムーズな移行が可能となる。

4. 重症下肢虚血に対する血管新生療法の検討

現在、重症下肢虚血に対し、血行再建術が困難な症例に対して、自己骨髄単核球移植をはじめとした細胞移植、VEGF、HGF 遺伝子を用いた遺伝子治療や新規薬剤による治療が検討されている。しかし、明らかに効果が認められる治療はまだ開発されていない現状がある。我々は、間葉系細胞や新規薬剤を使用した血管新生療法の検討を行っている。

5. ヘパリン-PF4 複合体抗体の臨床研究

ヘパリンは抗凝固剤として血管外科手術において一般的に使用されている。ヘパリンの使用により血小板減少 (HIT) が誘発され、重篤な血栓症を発症することがあることが知られている。ヘパリンの使用量が少量であっても、ヘパリン血小板第4因子 (PF4) 複合体に対する特異的な抗体が産生され、HIT を惹起することがある。ヘパリン投与による抗体の産生はこれまで過小評価されていると思われる。我々は、過去2年間、約300例以上の血管外科手術患者において、ヘパリン-PF4 複合体抗体とPF4 活性を測定し、発生頻度、相関性について調査した。ヘパリン-PF4 複合体抗体陽性率は約13%であった。また、PF4 抗体陽性者のPF4 活性は、陰性者より有意に高値であった。今後、統計学的解析を加え、報告する予定である。

6. ステントグラフト術における下肢虚血再灌流障害予防に関する研究

ステントグラフトを行う際に大腿動脈への留置に用いるシースは大口径であることが多く、この大口径のシースを動脈内に長く留置することによる末梢動脈の血流遮断で下肢虚血を引き起こす。下肢虚血が長時間に及ぶとシースを抜去した際に下肢虚血再灌流障害が起こり、下肢コンパートメント症候群、そして時に死に至る合併症を引き起こす。そのため我々は長時間に及ぶ手術を行う場合や大口径シースにより下肢虚血を引き起こす可能性がある場合には、大口径シースの末梢側の動脈に小口径のシースを留置し、シースのコネクターを連結することで末梢動脈へ血流を供給することが可能で、このシステムによる下肢虚血の予防効果を研究している。

7. 弓部大動脈瘤に対する新しい低侵襲手術の開発 (Retrograde *in situ* branch surgery: IBS)

胸部大動脈瘤の内、頸部動脈分枝を巻き込んだ形で瘤が存在する弓部大動脈瘤に対し、新しい手術方法を検討する。従来、この疾患に対しては弓部大動脈人工血管置換術が行われてきたが、既に胸骨正中切開により上行大動脈人工血管置換、心臓手術が行われている症例や、心機能・呼吸機能が著明に低下した症例においては、弓部大動脈瘤に対する手術は困難である場合が少なくない。そのため、より低侵襲な術式として、(1) 頸動脈間バイパスを行い、(2) ステントグラフトを上行大動脈から下行大動脈に留置し、(3) 頸動脈から逆行性に弓部大動脈に挿入したステントグラフト内に針で穴を開け、(4) カバードステントをステントグラフト内に留置することで

脳循環をわずかな虚血時間のみで血行再建することができる術式 RIBS を開発した。in vitro 下の基礎実験を繰り返した後に、学内倫理委員会、医療安全委員会による審査が行われ、臨床応用の承諾を得て、弓部大動脈人工血管置換術が困難と判断された弓部大動脈瘤患者に対して、本術式 RIBS による低侵襲手術を行っている。

〔点検・評価〕

1. 小児外科

医学科 4 年生のコアカリキュラムにおける小児外科配分時間数が少なく、その一方で小児外科疾患の種類が多いため、医学生として知らなければならない疾患の学習には 5 年生のポリクリが重要となる。しかし、小児外科の手術が本院に限られているため、5 年生の外科実習を分院でおこなっている学生は、小児外科疾患の学習の機会が得られない状況である。本人においては学生教育に十分な数の小児外科症例数を確保することができているので、今後、これらの症例を教育につなげる改善が必要である。

研究の成果は、国内の主要学会において発表し、一部は主要雑誌に掲載された。

2. 血管外科

現在、以下の研究が進行中である。さらに、日本屈指の腹部および胸部大動脈瘤ステントグラフト手術件数をほこり、日本で唯一米国から最先端の血管内治療用医療器具を輸入し使用している。現在この臨床データを解析し、その成績を主要学会で報告している。

- 1) 弓部大動脈瘤に対する分枝付きステントグラフトの開発・臨床応用
- 2) 3次元画像ワークステーションを用いた胸部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフトの研究
- 3) 閉塞性動脈硬化症に対する Drug Delivery System の開発
- 4) 3次元画像ナビゲーションシステムを用いた血管内治療の開発
- 5) Simulator を用いた頸動脈ステント術の術後知的レベル改善に関する研究
- 6) 浅大腿動脈プラークに対する各種薬物治療効果の研究
- 7) 閉塞性動脈硬化症の新しい血管内治療法の研究
- 8) 閉塞性動脈硬化症に対する薬剤溶出ステントを用いた再狭窄予防効果に関する研究
- 9) 重症虚血肢に対する遺伝子導入細胞および幹細胞を利用した血管新生に関する研究

- 10) bFGF (basic fibroblast growth factor) 含有生体接着剤の血管吻合部治癒促進効果に関する研究
- 11) 経皮的治療を可能にする Low Profile なステントグラフトの開発
- 12) 動脈瘤、心不全用 wireless 圧センサーの応用に関する研究
- 13) Wireless 圧センサーを用いた動脈瘤ステントグラフト治療の治療効果に関する研究
- 14) 本邦における血管病変の特殊性に関する研究
- 15) 腎動脈狭窄に対するステント術の治療効果に関する研究
- 16) 下肢静脈瘤に対する非手術的治療法に関する研究および臨床応用
- 17) 3次元画像ワークステーションを用いた大動脈瘤の経時的変化、治療効果の研究
- 18) 3次元カラードプラーを用いた血管病変の診断、術式に関する研究
- 19) 血管内超音波 (IVUS) を用いた血管内プラークの予後に関する研究
- 20) レーザー血流計を用いた血行再建と肢切断レベルの決定に関する研究
- 21) 頸動脈プラークの安定化に及ぼすスタチンの研究
- 22) 血管内治療用シミュレーターの医師トレーニングにおける有用性
- 23) 腎動脈狭窄症の治療適応を改善する研究
- 24) より低侵襲な頸動脈内膜剥離術の開発
- 25) 内腸骨動脈コイル塞栓術後の殿筋性跛行の予後決定因子を解明する研究
- 26) Zenith vs Excluder (腹部大動脈ステントグラフト) : どちらが優れているかを検討する研究
- 27) MDCT を用いた下肢バイパス用大伏在静脈の質的評価に関する検討
- 28) 未治療の胸部大動脈潰瘍性病変の予後に関する研究
- 29) 腹部大動脈瘤の診断契機に関する研究
- 30) 内蔵動脈瘤に対するカテーテル治療戦略に関する研究
- 31) 大動脈ステントグラフト内挿術に際して大腿動脈を露出する際の外科的方法対経皮的方法の是非に関する研究
- 32) 胸部大動脈瘤患者において鎖骨下・椎骨動脈の側副血行に関する研究
- 33) 弓部大動脈瘤に対する hybrid surgery の開発

- 34) スtentグラフト術における下肢虚血再灌流障害予防に関する研究
- 35) 弓部大動脈瘤に対する新しい低侵襲手術の開発 (Retrograde in situ branch surgery: RIBS)

研究業績

I. 原著論文

- 1) Ohki T. Chief medical editor's page: Current trends and future directions. *Endovascular Today* 2009; January: 4.
- 2) Ohki T. Chief medical editor's page: Progress continues, but challenges remain. *Endovascular Today* 2009; May: 4.
- 3) Ohki T. Chief medical editor's page: Meeting the thoracic challenge? *Endovascular Today* 2009; October: 4.
- 4) Kanaoka Y, Ohki T, Huang J, Shah A. A comparison between standard and high density Resilient Aneurysm Rx in reducing aneurysm sac pressure in a chronic canine model *J Vasc Surg* 2009; 49(4): 1021-8.
- 5) Ueno T, Tanaka K, Jurewicz M, Murayama T, Guleria I, Fiorina P, Paez JC, Augello A, Vergani A, Wong M, Smith RN, Abdi R. Divergent role of donor dendritic cells in rejection versus tolerance of allograft. *J Am Soc Nephrol* 2009; 20(3): 535-44.
- 6) Iwata H, Nakamura K, Sumi M, Ninomiya M, Sakai Y, Hirata Y, Akaike M, Igarashi T, Takamoto S, Nagai R, Sata M. Local delivery of synthetic prostacycline agonist augments collateral growth and improves cardiac function in a swine chronic cardiac ischemia model. *Life Sci* 2009; 85(5-6): 255-61.
- 7) 金岡祐司, 原 正幸, 前田剛志, 金子健二郎, 太田裕貴, 墨 誠, 田中克典, 黒澤弘二, 平山茂樹, 立原啓正, 戸谷直樹, 石田 厚, 大木隆生. 慢性解離性胸腹部動脈瘤に対して血管内治療が奏功した一例. *血管外科* 2009; 28(1): 152-8.
- 8) 稲垣英一郎, 濱中荘平, 南 一司, 田淵 篤, 柚木靖弘, 久保裕司, 金岡祐司, 松本三明, 正木久男, 種本和雄. 高安静脈炎による異型大動脈縮窄症に対する上行大動脈-腹部大動脈バイパス術の3症例. *日心臓血管外科学会誌* 2009; 38(4): 239-43.
- 9) 太田裕貴, 大木隆生. International College of Angiology 2008 を主催して. *血管外科* 2009; 28(1): 230-1.
- 10) 前田剛志, 河野修三, 北川和男, 岡本友好, 矢永勝彦, 大木隆生. 小腸穿孔を生じたアレルギー性肉芽腫性血管炎の1例. *日消外会誌* 2009; 42(5): 546-50.

- 11) 前田剛志, 金岡祐司, 石田 厚, 大木隆生. Bed-side Teaching 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療. 呼吸と循環 2009; 57(9): 941-7.
- 12) 金子健二郎, 墨 誠, 大木隆生. 【頸動脈病変へのアプローチ Up-To-Date】頸動脈狭窄に対する外科的治療. *Angiol Front* 2009; 8(2): 179-84.
- 13) 福島宗一郎, 金岡祐司, 大木隆生. III. 老年医学の展望 高齢者における頸動脈狭窄症の治療. *老年医学 update* 2009-10; 157-61.
- 14) 芦塚修一, 吉澤穰治, 金井正樹, 桑島成央, 黒部 仁, 矢永勝彦, 大木隆生. 多期手術により両側腎機能を温存できた両側性 Wilms 腫瘍の1例. *日小外会誌* 2009; 45(5): 840-4.
- 15) 芦塚修一, 田中圭一郎, 桑島成央, 大橋伸介, 吉澤穰治, 大木隆生. 【小児内視鏡手術の適応拡大 安全な術式と従来法との比較検討】横隔膜挙上症に対する胸腔鏡手術. *小児外科* 2009; 41(9): 998-1002.
- 16) 黒部 仁, 馬場優治, 平松友雅, 大橋伸介, 金井正樹, 芦塚修一, 吉澤穰治, 大木隆生. Nuss 法における術後バーの変位とバー固定法の工夫に関する検討. *日小外会誌* 2009; 45(7): 1049-54.
- 17) 黒部 仁, 大塚正彦, 奥起久子, 箕面嵩至宏, 森丘千夏子, 滝島 茂, 石黒利佳, 金井正樹, 桑島成央, 芦塚修一, 吉澤穰治. NICU 入院中に手術を施行した小児外科症例の検討. *埼玉医会誌* 2009; 44(1): 52-4.
- 18) 黒部 仁, 大橋伸介, 桑島成央, 芦塚修一, 吉澤穰治, 大木隆生: 小児鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア閉鎖術 laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure (LPEC) の手術成績の検討. *慈恵医大誌* 2009; 124(3): 107-11.

II. 総 説

- 1) 石田 厚, 大木隆生. 【CKD のすべて】CKD を合併した疾患の治療 CKD を合併した慢性閉塞性動脈硬化症の治療. *腎と透析* 2009; 67(増刊): 498-504.
- 2) 金岡祐司, 大木隆生. 【診療科ごとの最新モダリティ活用】私が取り組む・臨床での有効利用 血管疾患手術増加に伴う X 線血管撮影装置の役割・有効性は大きい. *新医療* 2009; 36(9): 66-9.
- 3) 田中克典. 【産婦人科における治療範囲の広がり」と他科との連携 産婦人科の魅力と今後の展望】婦人科悪性腫瘍(卵巣癌・子宮体癌など)婦人科癌における傍大動脈領域の転移巣切除. *産婦の実際* 2009; 58(10): 1497-1500.
- 4) 墨 誠, 石田 厚, 大木隆生. データ解説: 動脈瘤血管内治療後のドキシサイクリン投与の無作為比較試験 (A randomized, placebo-controlled trial of doxycycline after endoluminal aneurysm repair). *Int Rev Thromb* 2009; 4(2): 108-9.

- 5) 墨 誠, 戸谷直樹, 大木隆生. ゴア社の Excluder スtentグラフトの特徴と実際. 日本血管外科学会第10回教育セミナーテキスト 2009: 10-4.
 - 6) 太田裕貴, 金岡祐司, 大木隆生. 動脈硬化治療の最前線 特集 大動脈瘤に対するstentグラフト治療. Medical View Point 2009: 30(6).
- III. 学会発表**
- 1) Ohki T. Master of ceremony. 51st Annual World Congress · ICA 2009 (International College of Angiology). Beijing, Oct.
 - 2) Kanaoka Y, Shukuzawa K, Baba T, Hara M, Maeda K, Kaneko K, Ohta H, Sumi M, Kurosawa K, Tanaka K, Hirayama S, Tachihara H, Toya N, Ishida A, Ohki T. The retrograde stenting technique to rescue the mesenteric ischemia during fenestrated stentgraft deployment. 51st Annual World Congress · ICA 2009 (International College of Angiology). Beijing, Oct.
 - 3) Kurosawa K, Hara M, Kaneko K, Maeda K, Ohta H, Sumi M, Tanaka K, Hirayama S, Tachihara H, Toya N, Kanaoka Y, Ishida A, Ohki T. Therapeutic Strategies for visceral artery aneurysms. 51st Annual World Congress · ICA 2009 (International College of Angiology). Beijing, Oct.
 - 4) Sumi M, Hara M, Kaneko K, Maeda K, Ohta H, Tanaka K, Kurosawa K, Hirayama S, Tachihara H, Toya N, Kanaoka Y, Ishida A, Ohki T. The efficacy of the TachoComb surgical collagen patch in reducing hemostasis time of the femoral arteriotomy site during EVAR: a randomized controlled study. 51st Annual World Congress · ICA 2009 (International College of Angiology). Beijing, Oct.
 - 5) Ohki T. (Symposium 1) Endovascular Aneurysm Repair (EVAR) in Asia. The 10th Annual Congress of Asian Society for Vascular Surgery. Busan, Oct.
 - 6) Ohki T. Technical tips for TEVAR. TCT 2009 (Transcatheter cardiovascular therapeutics). San Francisco, Sept.
 - 7) 大木隆生. (ミート・ザ・エキスパート) 腹部・胸部大動脈瘤に対するstent治療の現状と今後 - Branched Stent Graft for Thoracoabdominal Aneurysms: the Final Frontier -. 第73回日本循環器学会総会・学術集会. 大阪, 3月.
 - 8) 大木隆生. (ランチョンセミナー) 血管内治療が切り開く血管外科医の将来. 第109回日本外科学会定期学術集会. 福岡, 4月.
 - 9) 石田 厚, 宮崎 勝, 大木隆生. 腹部大動脈瘤血管壁のMDCTによる質的診断の試み(第2報). 第109回日本外科学会定期学術集会. 福岡, 4月.
 - 10) 戸谷直樹, 原 正幸, 金子健二郎, 前田剛志, 太田裕貴, 墨 誠, 田中克典, 黒澤弘二, 平山茂樹, 立原啓正, 金岡祐司, 石田 厚, 大木隆生. 腹部大動脈瘤に対するstentグラフト治療 - Zenith · Excluder の初期・中期成績と注意点 -. 第109回日本外科学会定期学術集会. 福岡, 4月.
 - 11) 立原啓正, 原 正幸, 前田剛志, 金子健二郎, 太田裕貴, 墨 誠, 黒澤弘二, 平山茂樹, 戸谷直樹, 金岡祐司, 石田 厚, 大木隆生. 慢性腎不全患者に対するstentグラフト内挿術の腎機能に及ぼす影響. 第109回日本外科学会定期学術集会. 福岡, 4月.
 - 12) 平山茂樹, 福島宗一郎, 原 正幸, 萩原 慎, 宿沢孝太, 前田剛志, 金子健二郎, 太田裕貴, 墨 誠, 黒澤弘二, 立原啓正, 戸谷直樹, 石田 厚, 大木隆生. 感染性動脈瘤に対してstentグラフト治療を行った5例の検討. 第109回日本外科学会定期学術集会. 福岡, 4月.
 - 13) 芦塚修一, 大橋伸介, 黒部 仁, 桑島成央, 吉澤穰治, 坪井一人, 矢野文章, 柏木秀幸, 矢永勝彦, 大木隆生. 鏡視下手術 小児外科と一般外科小児および成人例を含む重症身体障害児(者)に対する腹腔鏡下噴門形成術 成人例と比較して. 第109回日本外科学会定期学術集会. 福岡, 4月.
 - 14) 吉澤穰治, 大橋伸介, 桑島成央, 黒部 仁, 芦塚修一, 大木隆生. 研修医へのアンケート調査結果からみた医師臨床研修医が小児外科診療に参加する意義. 第46回日本小児外科学会学術集会. 大阪, 6月.
 - 15) 大橋伸介, 芦塚修一, 桑原成央, 黒部 仁, 吉澤穰治, 松平秀樹, 森川利昭, 大木隆生. 肺嚢胞性疾患を合併した漏斗胸患者の当院での治療方針. 第46回日本小児外科学会学術集会. 大阪, 6月.
 - 16) 芦塚修一, 大橋伸介, 黒部 仁, 桑島成央, 吉澤穰治, 坪井一人, 矢野文章, 柏木秀幸, 大木隆生: 当院で経験した重症身心障害児に合併した急性腹症の検討. 第46回日本小児外科学会学術集会. 大阪, 6月.
 - 17) 芦塚修一, 大橋伸介, 黒部 仁, 桑島成央, 吉澤穰治, 大木隆生. 小児の腹腔鏡下噴門形成術後再発例に対する腹腔鏡による再手術の工夫. 第21回日本内視鏡外科学会総会. 東京, 12月.
 - 18) 青木寛明, 吉澤穰治, 栗原英明, 山岡正慶, 小林尚明, 豊田 茂. (要望演題2: 短腸症候群症例の栄養管理 TPN・経腸栄養, 他) 巨大膀胱結石で発見されたシスチン尿症の1男児例. 第39回日本小児外科代謝研究会. 鹿児島, 10月.
 - 19) 大橋伸介, 芦塚修一, 黒部 仁, 桑島成央, 田中圭一朗, 吉澤穰治, 大木隆生. 診断に難渋した重症心身障害児の急性腹症. 第23回日本小児救急医学会. 熊本, 6月.
 - 20) 黒部 仁, 大橋伸介, 桑島成央, 芦塚修一, 吉澤穰

治, 大木隆生. 小児外科領域における腹腔鏡手術の最先端 小児鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術 (LPEC). 第34回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 6月.

IV. 著 書

- 1) 大木隆生編. 胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の実際. 東京: 医学書院, 2009.
- 2) 大木隆生. 胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフトの実際. 重松宏監修, 太田 敬, 小櫃由樹生編. 日本血管外科学会教育セミナーテキスト: 標準血管外科学Ⅱ. 東京: 日本血管外科学会, 2009: p.132-5.
- 3) 石田 厚. 2. TEVAR 過去と現状 (米国・本邦). 大木隆生編. 胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の実際. 東京: 医学書院, 2009. p.3-11.
- 4) 戸谷直樹, 金岡祐司, 大木隆生. 6. トラブルシューティング. 大木隆生編. 胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の実際. 東京: 医学書院, 2009. p.37-50.
- 5) 金岡祐司, 前田剛志, 大木隆生. 7. TEVAR の実際【応用編】. 大木隆生編. 胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の実際. 東京: 医学書院, 2009. p.51-73.

整形外科学講座

教授: 丸毛 啓史	膝関節外科, 骨・靭帯の生化学
准教授: 浅沼 和生 (第三病院)	骨・軟部腫瘍
准教授: 大谷 卓也	股関節外科
講師: 舟崎 裕記	肩関節外科, スポーツ傷害
講師: 曾雌 茂	脊椎外科, 骨代謝
講師: 窪田 誠	足の外科
講師: 増井 文昭 (第三病院)	骨・軟部腫瘍
講師: 吉田 衛 (国立西埼玉中央病院)	肩関節外科, リウマチ
講師: 斎藤 充	骨代謝
講師: 上野 豊 (第三病院)	股関節外科
講師: 藤井 英紀 (柏病院)	股関節外科
講師: 菅 巖	肩関節外科

教育・研究概要

I. 40歳以上の反復性肩関節脱臼に対する鏡視下 Bankart 修復術

40歳以上の腱板完全断裂を伴わない反復性肩関節脱臼12例を検討した結果, 初回発症は20歳代が最も多く, 関節鏡所見で若年者と明らかな相違は見出せなかった。しかし, 手術に至った経緯, 関節鏡所見において男女間で特徴的な差が認められた。術前のJSS-SISは平均51点であったが, 術後は92点に改善し, また, 術後の可動域は, 40歳未満の群に比べ, 外旋可動域が術前, 術後6か月の時点で減少していたが, とともに両者間に有意差はなかった。

II. 成長期のテニスプレーヤーに生じた肩甲下筋付着部の裂離骨折の1例

17歳の男子に生じた稀な肩甲下筋付着部の裂離骨折を経験した。4年前よりテニスストローク中に疼痛を自覚し, とくに挙上, 内転で疼痛が誘発された。関節鏡視では, 小結節付着部より骨片が遊離し, 肩甲骨関節窩と小結節間で挟まる所見と肩甲下筋腱の関節面断裂が確認され, 骨片の摘出と腱修復術を行った。

III. 変形性関節症における腰椎変性すべり症の合併頻度について

下肢重度変形性関節症(OA)と腰椎変性すべりの合併頻度について調査した。膝OA:57%, 股